

京都府

日時	平成 19 年 2 月 15 日
開催場所	マリアージュ福知山
参加人数	68 人
フォーラム名	情報モラル等の指導を普及するフォーラム in 京都
フォーラムの狙い	情報モラルの指導の充実のため、学校教育における位置づけを示すとともに、情報モラルの育成に取り組んでいる先進的な実践例等を学ぶ機会とする。
1 部 講演	京都教育大学教育学部教授 沖花 彰 「学校教育における情報モラルの位置づけとその指導のあり方」
2 部 講演	鹿児島県志布志町教育委員会参事兼指導主事 辻 慎一郎 「児童生徒の主体的な活動や保護者・地域との連携による情報モラルの指導」
3 部 講演	茨城県つくば市立荃崎第一小学校 坂本 小百合 「効果的な情報モラル指導のポイント」



< 講演の概要 >

「学校教育における情報モラルの位置づけとその指導のあり方」

- ・ 社会の急速な情報化の流れの中で子どもたちが育っている現状を多くの実証データをもとに分かりやすく示された。そして、「子どもも教師も保護者も同じ情報社会の一員として共に学び、適応能力を育んでいくことが大切である」という重要な視点を示された上で、具体的な指導内容について説明された。

「児童生徒の主体的な活動や保護者・地域との連携による情報モラルの指導」

- ・ 学校及び教育委員会での実践をもとに「情報モラルの学習に使えるサイト」を活用した体験的な学習の進め方やPTAでのワークショップ等の指導案が紹介された。また、先進的な取組として群馬県の小野上小学校の情報モラル指導の取組など数多くの資料や実践事例が紹介された。

「効果的な情報モラル指導のポイント」

- ・これまでの道德教育を基盤として、情報モラルの指導のねらいを「自分の身を守る、相手を思いやる、公共心・公德心を育む」の3つの柱に整理していることが説明された。そして次に、学校全体での情報モラル指導の取組や日常生活との関連を生かした授業の工夫などが報告された。

< 考察 >

本フォーラムにより、情報モラルの指導は、今や「子どもたちの日常生活に関わる身近で重大な課題」であり、教師・学校だけでなく、保護者・地域が積極的に取り組んでいく必要があるとの思いがより一層強まった。

また、「情報モラルの指導」と言うと難しく考えがちになるが、まず日々の教育活動や生活の中でできることから始めて、それらを少しずつ広げていくことが大切であるという視点が示されたことから、今後はそれらを生かして情報モラルの指導の普及を図っていきたいと考えている。